

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227

広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781

<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成25年6月(2013年) No.570

OMC例会曜日は当分現状のまま開催

大阪ビデオクラブ(OVC)が第2日曜日の午後に例会日が変更されたのに伴い、OMCも夜間から昼間への変更を考えましたが、会員の皆さんの意見を個別にいろいろ伺ってみますと、日曜日の午後開催になると、日曜は何かと行事が重なり具合が悪いという方が居られました。確かに日曜日は祭りや行事或は家族との関係で空けておきたいという事情も判りますし、難波市民学習センターの会場が、日曜の午後は希望が多くて取り難いこと、まして来年3月以降、OCATビルそのものの運営方法が判らずこのままでは学習センターそのものが閉鎖されるかも知れない、ということから、3月までは様子見の形で現状のまま第4土曜日の18時よりの時間で例会を開催します。但し12月は第4土曜日28日の夜は閉館のようですので第3土曜日21日を予定しています。また1月例会は第3日曜日の午後とし総会開催、夜は新年会を例年通り行いたいと考えております(合原記)。

第2回懐かしの8ミリ映画を楽しむ会は9月1日(日曜)

このほど行われた大阪アマチュア映像連盟総会にて、今年も「懐かしの8ミリ映画を楽しむ会」をやろうという事が決まりましたので、6月1日難波市民学習センターの抽選会で、9月1日(日曜日)講堂をおさえました。講堂は定員120名あり、昨年第2研修室定員50名の2倍以上の広さがありますので、若干の一般観客の動員も必要になってきます。作品集めも開始します。8ミリフィルム作品(テレシネも含む)をお持ちの方はぜひ出品して下さい。出品料は8,000円です。8ミリフィルム時代の作品は、フィルムが高価だったので、じっくり取り組んで制作されたドキュメント作品など印象に残っている往年の名作が数多くあります。これらの蔵出し名画鑑賞会が今から期待されます。

6月例会のお知らせ

6月例会は第4土曜22日午後6時より、いつもの難波市民学習センター(JR難波OCATビル4階)にて開催します。暑くなってきましたが、会場は冷房が効いていますので何か上に羽織るものをお持ちの方がよいと思います。

月1回の例会です。皆で楽しいひとときを送りましょう。

けで4シーン3分10秒は、矢張り長すぎるのではないのでしょうか。

4. バラのシンフォニー(HDV)

上田吉巳 8分25秒

岸和田市にある「大阪府営蜻蛉池公園」のばらを取材されました。先ず作者の撮影時間が素晴らしい。多分早朝7時から8時の間でしょう。ばらが一番美しく見える時間です。早朝のばらが一番美しい時間は、また撮影の邪魔をする人がいない時間帯でもあります。作者は時間をかけて丹念にばらを追っかけておられます。

さらに、ばらは花卉が厚く且つ八重咲きが多いので、順光撮影が普通です。作者はこの作品で、半逆光でぎりぎりまでばらを追い詰めて、素晴らしい作品に仕上げられました。

惜しむらくは、このばら園は戦前ヨーロッパで流行った、幾何学模様のフランス庭園の様式を踏襲して作られたらしく、また栽培品種も戦後早々から1980年代に作出された園芸品種が主なようで、変化に乏しい嫌いがあります。最近はこちらに素晴らしい新しいばら園が生まれています。是非訪ねられて、ばらのシンフォニーに挑戦していただけたらと思います。

5. 裸坊祭(BD)

紙本 勝 12分10秒

太宰府に流された菅原道真公が、防府に立ち寄られた際の、送迎の古式を今に伝えるのが「裸坊祭」だそうです。

祭りは、女神輿、子供の俵神輿が町中を練り歩いて次々と神前に登場しますが、やがて日が落ちると提灯を持った裸坊が境内に溢れ、「兄妹ワッショイ」のかけ声が湧き上がります。神輿が引き出されて先頭神輿が出発、第二神輿に御網代神輿の出発が続いて、祭りは一挙にクライマックスに向かいます。

この御網代神輿に触れると諸願成就とあって、裸坊たちが殺到します。その中を重さ1トンという御網代神輿が急な階段を滑り下ります。画面では輿を担ぐ裸坊たちが輿と一緒に落ちてきます。何人かは足を骨折していても不思議ではないといった感じです。

やがて神輿に御網代輿が続いて御旅所に向かい、神事が行われて、天神様は御還幸になり祭りは終わりを告げます。

天神様は学問の神様ですので、温和しい祭りかと思っておりましたが、この祭りは関西随一の「荒祭り」だそうです。そう言えば天満宮は菅原道真公の怨霊を鎮めるために作られた神社ですから、荒祭りは天神様の怨霊を鎮める祭りにふさわしいのだと、何となく納得しました。

紙本さんの何時もながらの迫力のある作品を堪能させて頂きました。

6. 土佐電鉄(BD)

江村一郎 6分40秒

「よさこいを撮りに行ったとき、高知の路面電車を撮った」との作者のコメントで、映写は始まりました。土佐電鉄は、高知を中心に展開する路面電車ばかりの私鉄です。日本各地から集められた様々な電車が次々と登場し、「よさこい踊り」のチームの踊りが通り過ぎて、車窓に街の風景が展開します。

映写が終わって、司会者は「よさこいを撮りながら、これだけ沢山の電車を追っかけたのですか?」と問いかけ、江村さんの答えて曰く「こういうことでもせんとね!」筆者には、忘れられない問答でした。

7. ビクトリア滝(BD)

井上勝彦 8分26秒

画面は国境を跨ぐ長橋の先で、水しぶきに朝日が映えて炎となる衝撃的なシーンから始まり、一転幅1.7kmに及ぶ長大なビクトリア滝の空撮画面が展開されて、この滝の特異な構造を否応なく我々に理解させてくれます。「世界3大滝の随一」との評価が専らでした。

素晴らしい画面が沢山出てきます。「悪魔の滝」とその後の濁流や水しぶき、流れ落ちる奔流、湧きあがる噴煙のような水しぶき、虹が立ち上る夢のようなカットが続きます。どれをとってもクライマックスに使える第一級のシーンです。

しかし、冗長と思われる長いシーン、不要と思われるカットもありました。公園案内板、リビングストーン像、観光客のウロウロする姿などです。是非もう一度画面を

■第32回日本を縦断する」映像発表会 7月7日（日曜）12時より開催

日本アマチュア映像作家連盟、大阪市立中央図書館共催の日本縦断映像発表会が中央図書館で開催されます。関西から上総修一郎氏と杉本憲一氏、合原一夫氏の作品が出品されています。他クラブの人たちの作品を観ることは、作品づくりにとって大変勉強になるものです。ぜひ行ってください。

■例会レポートの作者名は「さん」付けをやめます。ご了承下さい。

従来、慣習的に作者名に「さん」付けをしておりましたが、全国各地のクラブ便りを見ても「さん」付けは無いようですし、一部の方のご指摘もありましたので、今月から省くことにします。書記の方よろしく。

5月例会のレポート

ぐんと気温も上がった5月例会日、出席者も20名台に乗り時間一杯の上映で大盛会。今月の司会は関氏、書記、河合氏、上映担当、井上氏、録画、江村氏、受付兼照明係、華岡、紙本両氏の担当で進行しました。

◆出席者：有村、井上、上田、江村、岡本、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、鉄具、西村、華岡、前田、森口、森下、山本、渡辺の20名と作品12本でした。

◆上映作品（今月の講評は河合世話役です）

1. 桜の木の下でこの喜びを (BD)

前田茂夫 8分59秒

つい先月桜の散る風景を目的に八幡市の背割堤に出かけられた前田さん、そこで出会ったのは外人カップルの結婚式らしい風景でした。慌ててカメラを向けられたそうです。画面は司会者(司祭かも)らしき人物に促されて、新郎の誓いの言葉で始まります。新郎の言葉を聞く新婦の幸せそうな表情が印象的です。次は新婦の言葉です。昨夜慌ててスパイラルノートを開いて作っただらしいメモを、新婦は取り出して読み始めます。幸せな語らいの中で指輪の交換。感極まって抱擁とキスシーン。

湧き上がる「お目出度とう」の歓声。二

人だけで作り上げた桜の木の下での結婚式。支えてくれた友人たちや、前田さんを含めてこの吉事に偶然立ち会った路傍の総ての人々の祝福を受けて、二人の喜びは一段華やかなものになりました。この映像はユーチューブにアップされているそうです。見逃された方は、そちらでどうぞ。

（注：YouTubeの検索欄に”桜の木の下で結婚式”と入力する）

2. 六甲山上周遊 (BD)

有村 博 6分25秒

山好きの有村さん、今回は早春の六甲山上へ。先ず訪れたのは六甲高山植物園。

ここは牧野富太郎の指導を受けて阪神電鉄が昭和8年に開園、80年の歴史を誇ります。立地を生かして、高山植物や世界の寒冷地植物が栽培され、ここから高山植物や山野草の権威が多く巣立ったという、我が国有数の植物園です。訪れられる時期が少し早かったせいか、紹介された花は多くなく、売り物の「ヒマラヤの青いケシ」の公開も少し先のことでした。作者はここから木道橋を渡って、オルゴール館へ。

牧場、グルメ、登山と様々な楽しみがある六甲山上で、作者は高山植物園内外の植物やオルゴールの音色に特化して映像化されています。コメントはありませんでしたが、この日は「癒やしの世界」を追い求められたに違いありません。

3. チョベ国立公園 (BD)

華岡 汪 12分42秒

ここはアフリカ大陸の中でも多くの野生動物が生息している地域の一つで、象の生息密度は世界一だということです。作者はここのサファリツアーに参加されて、沢山の野生動物の映像を撮影されました。

草原では沢山の象が家族連れで散歩を楽しんでおり、一方川べりではツアー客がのんびりと休憩、ツアーの客が乗る車は無防備な4輪駆動車といった具合で、アフリカの草原の厳しさは窺い知ることは出来ませんでした。「この辺には猛獣はいないのか」といった質問が出ましたが、猛獣は見受けられなかったそうです。

それにしても、「象の楽園」と言われる生息地とはいえ、全編を通じて象の映像だ

見直して整理して頂くと、とても素晴らしい作品になると思いました。

8. 大山は秋 (BD)

河合源七郎 6分15秒

鳥取県の大山の秋を取材した筆者の作品。準備不十分のまま出発して、その上天候も雨もよいとあって映像不足の中途半端な作品になってしまいました。

無理をして、天候回復後の大山の映像を付け足して編集したら、司会者から「最後のシーンは不要ではないか」と指摘されました。ご尤も、やり直します。

9. 奥琵琶湖さくら街道 (BD)

進藤信男 10分35秒

琵琶湖は近世初頭、北陸と京・大阪を結ぶ重要な交通路で、1000隻を超える丸子船が活躍したといわれています。そしてその活躍の拠点が、南は天津、北では奥琵琶湖の塩津、菅浦、大浦、海津の湊でした。

これらの奥琵琶湖の湊を結ぶ街道にさくらが植えられたのは昭和の中頃、今では大木に育って[奥琵琶湖のさくら街道]と呼ばれて、多くの人々を喜ばしています。

作者は先ず、観光船に乗って湖岸のさくら並木を紹介、上陸して水上勉の「桜守」の主演になった西近江路追坂峠の「清水のサクラ」、道路作業員「室戸清七」が自費で植えたという「海津大崎のさくら並木」がエピソードを交えて語られます。もう少し天候が良ければと残念でなりません。

10. いずみホールで撮りました (BD)

鉄具嘉夫 10分30秒

本格的な音楽ホール「いずみホール」で行われた、アマチュア合唱団のジョイントコンサートを、許可を取って撮影・録音されました。

客席での撮影は許可されませんでしたので、録音撮影室を独占して撮影、音声はライン出力を貰われたそうです。カメラは1台で、ミキサーもなく、総て一人での作業だったようですから、ご苦労が多かったと思われる。しかし、鉄具さんにとっては、貴重な経験になったことでしょう。

11. ダージリン (BD)

山本正夢 10分30秒

ダージリンは、世界3位の高峰、カンチ

エンジンガ 8586m の麓、2100メートルの丘陵地帯にあって、世界で最高級といわれるダージリン紅茶の産地です。

今回作者は、世界遺産の「ダージリン・ヒマラヤ鉄道」を探り上げられました。

この鉄道は、兎に角、途方もなく面白い。ダージリンまでの一部区間では、観光用に蒸気機関車がトロッコ客車を牽引して、今なお活躍しています。しかし、開業以来110年間使われているとあって、修理部品は当然手作りになって、苦労が絶えないようです。駅では、村の人達が操車場のなかをうろうろ歩いています。列車が出発して街に出ると、路面電車ならぬ路面列車が、自動車と人の雑踏を潜り抜けるように走りますし、またあるときは家の間を掠めてすいすい(但し時速10km以下)と走ります。

住民の生活と観光を両立させ、庶民の姿を素朴なまま徹底して追い求めている姿勢に感激しました。最後に映し出されたテロップ、「このままでは存続が危ぶまれます…。いつまでも元気で走って欲しい」は、この映像を見る総ての人の願いでありましょう。

12. 黒川花笠太鼓踊り (BD)

高瀬辰雄 11分30秒

近江・土山に古くから伝わる雨乞いの神事「黒川花笠太鼓踊り」を取材されました。法螺貝の音とともに、鬼面をかぶった棒振り2人、花笠の太鼓打ち2人、側踊り(かわ踊り)20人が4つの集落から「青ヶ瀬橋」に集まってきて、出会い(儀式)があり、そろって大宮神社に向かいます。

神社では、上組下組に分かれて日野踊り、馬場踊り、神楽踊りが演じられます。そして画面は突然「湯立神事(?)」らしきものに変わりますが、テロップの説明はありません。これが「雨乞い神事」なのでしょう。御神酒をいただくシーンから、最後は全員そろって大黒踊りで終わります。

いかにも長閑な農村の風流祭りのようですが、踊りの主役鬼面の踊り手の荒々しい仕振りといい、雨乞いに激しい湯立神事が登場するなど、祭りの背景には厳しい「水争い」があったことが伺える祭りでした。